

第5回小笠原航空路協議会

- 日 時 平成22年11月26日(金) 午前10時
- 会 場 東京都庁第一本庁舎 33階北側 特別会議室N1
(東京都新宿区西新宿2-8-1)
- 議 題 (1) 小笠原航空路P I 評価委員会実施報告
(2) 洲崎地区周辺における気象・海象観測について
(3) その他
- 出席者 会長 比留間 英人 総務局長
飯尾 豊 港湾局 技監
野村 俊夫 知事本局 政策部長
邊見 隆士 都市整備局 航空政策担当部長
小沼 博靖 環境局 環境政策部 環境政策課長
(環境政策担当部長代理)
長谷川 均 環境局 自然環境部長
北村 俊文 港湾局 島しょ・小笠原空港整備担当部長
岸本 良一 総務局 行政部長
高木 真一 総務局 多摩島しょ振興担当部長
長谷川 昌伸 小笠原支庁長
森下 一男 小笠原村長
佐々木 幸美 小笠原村議会 議長

【当日配布資料】

- 資 料 1 第3回小笠原航空路P I 評価委員会 次第
- 資 料 2 洲崎地区周辺における気象・海象観測結果について
- 資 料 3 小笠原諸島世界自然遺産登録の状況について

第 3 回小笠原航空路 P I 評価委員会 次第

日時：平成 22 年 5 月 2 1 日(金) 1 3 時 3 0 分
場所：都庁第一本庁舎 3 3 階 S 1 会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 委員長、委員長代理の選任について
- (2) 小笠原航空路協議会実施報告について
- (3) その他

3 閉 会

【配布資料】

- | | |
|--------|----------------------|
| 参考資料 1 | 小笠原航空路協議会設置要綱 |
| 参考資料 2 | 小笠原航空路 P I 評価委員会設置要綱 |
| 参考資料 3 | 第 4 回小笠原航空路協議会配布資料 |

小笠原航空路PI評価委員

1. 行政手続に係る法制度について専門的知識、知見を有する者

廻 洋子（メグリ ヨウコ）

- ・生 年 昭和 25(1950)年 59 歳
- ・最終学歴 学習院大学史学部卒
- ・現 職 淑徳大学国際コミュニケーション学部教授
- ・略 歴 等 (株)地中海クラブ マーケティング部長、広報室長
淑徳大学国際コミュニケーション学部講師
交通政策審議会 委員 ほか

2. 航空行政について専門的知識、知見を有する者

阿部 雅昭（アベ マサアキ）

- ・生 年 昭和 10(1935)年 74 歳
- ・最終学歴 東京大学法学部卒
- ・略 歴 等 ①運輸省 航空局 飛行場部長・次長
② 〃 地域交通局長
③首都圏新都市鉄道株式会社 社長 ほか歴任

3. マス・コミュニケーションに関する専門性を有する者

鍛冶 壯一（カジ ソウイチ）

- ・生 年 昭和 05(1930)年 79 歳
- ・最終学歴 東京大学教養学部卒
- ・現 職 航空評論家
- ・略 歴 等 ①毎日新聞東京本社社会部 編集委員
財団法人日本宇宙少年団 理事
航空運航システム研究会 常務理事 ほか

洲崎地区周辺における気象・海象観測結果について

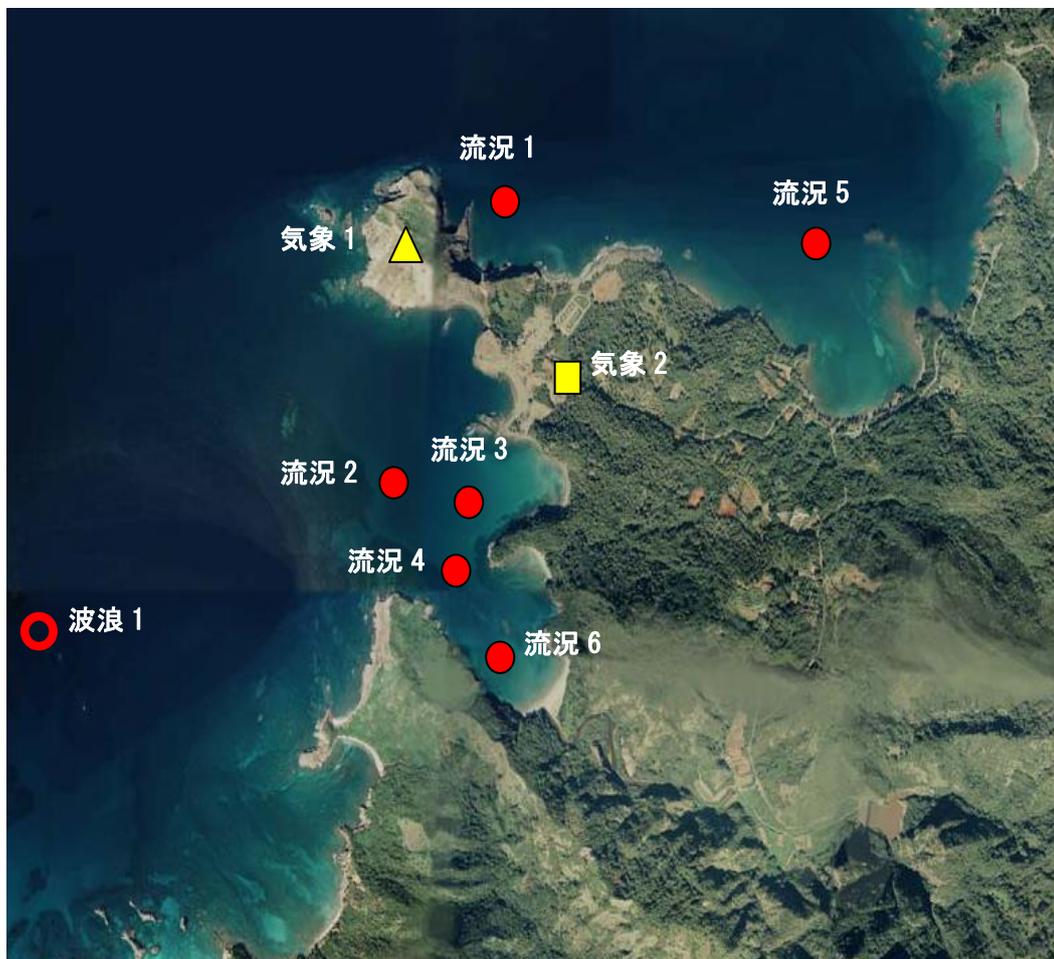
1 観測目的

航空路開設にむけた、洲崎地区周辺における滑走路配置案の検討及び環境影響シミュレーションの基礎データ収集のため

2 観測期間

- 気象観測 平成19年1月～平成21年12月（3年間）
- 海象観測 平成19年1月～平成19年12月（1年間）

3 観測ポイントと観測内容



- ▲ 気象1（風向・風速）
- 気象2（風向・風速・気温・湿度・気圧・降水量・視程・雲高・雲量・上層風）
- ◎ 波浪1（波高・波向・周期）
- 流況1～4（表層：流向・流速）
- 流況5～6（底層：流向・流速）

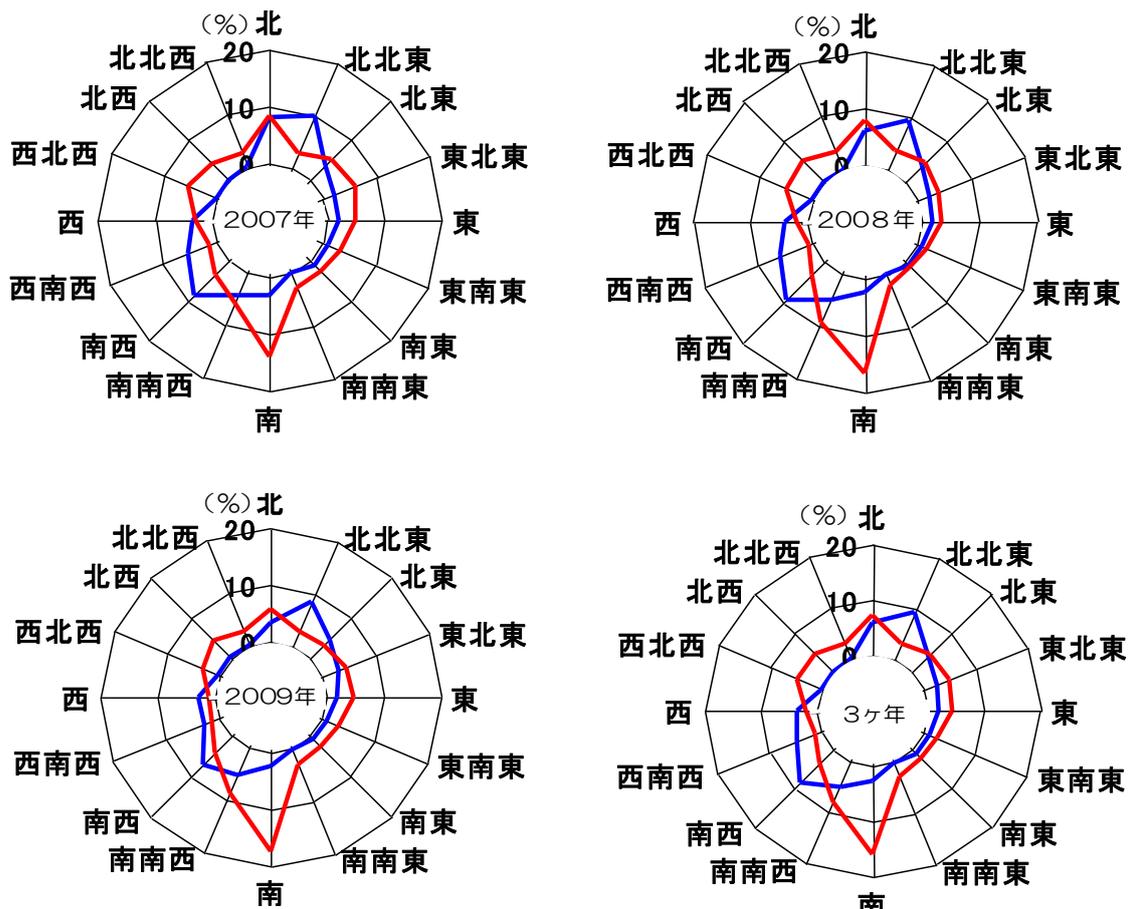
4 気象観測の結果

○ 3年間の風向・風速の観測結果について

観測地点	区 分		2007年	2008年	2009年	3ヶ年
気象1 (野羊山) 標高148m	最多出現	風向	南	南	南	南
		出現率	13.6%	16.6%	17.3%	15.8%
	平均風速		11.8kt (約5.9m/s)	10.5kt (約5.3m/s)	11.4kt (約5.7m/s)	11.3kt (約5.7m/s)
気象2 (洲崎地区) 標高17m	最多出現	風向	南西	北北東	北北東	北北東
		出現率	10.6%	9.4%	8.3%	9.2%
	平均風速		6.9kt (約3.5m/s)	6.3kt (約3.2m/s)	6.3kt (約3.2m/s)	6.5kt (約3.3m/s)

※1kt (ノット) =約0.5m/s

【風 配 図】



凡例： — 気象1 (野羊山山頂) — 気象2 (洲崎地区建設発生土置場付近)

○風の特徴

- ・気象1では、南～南南西の風が卓越しており、西風系の風が少なかった。
- ・気象2では、北北東と南西の風が卓越し、北西系及び南東系の風が極めて少なかった。

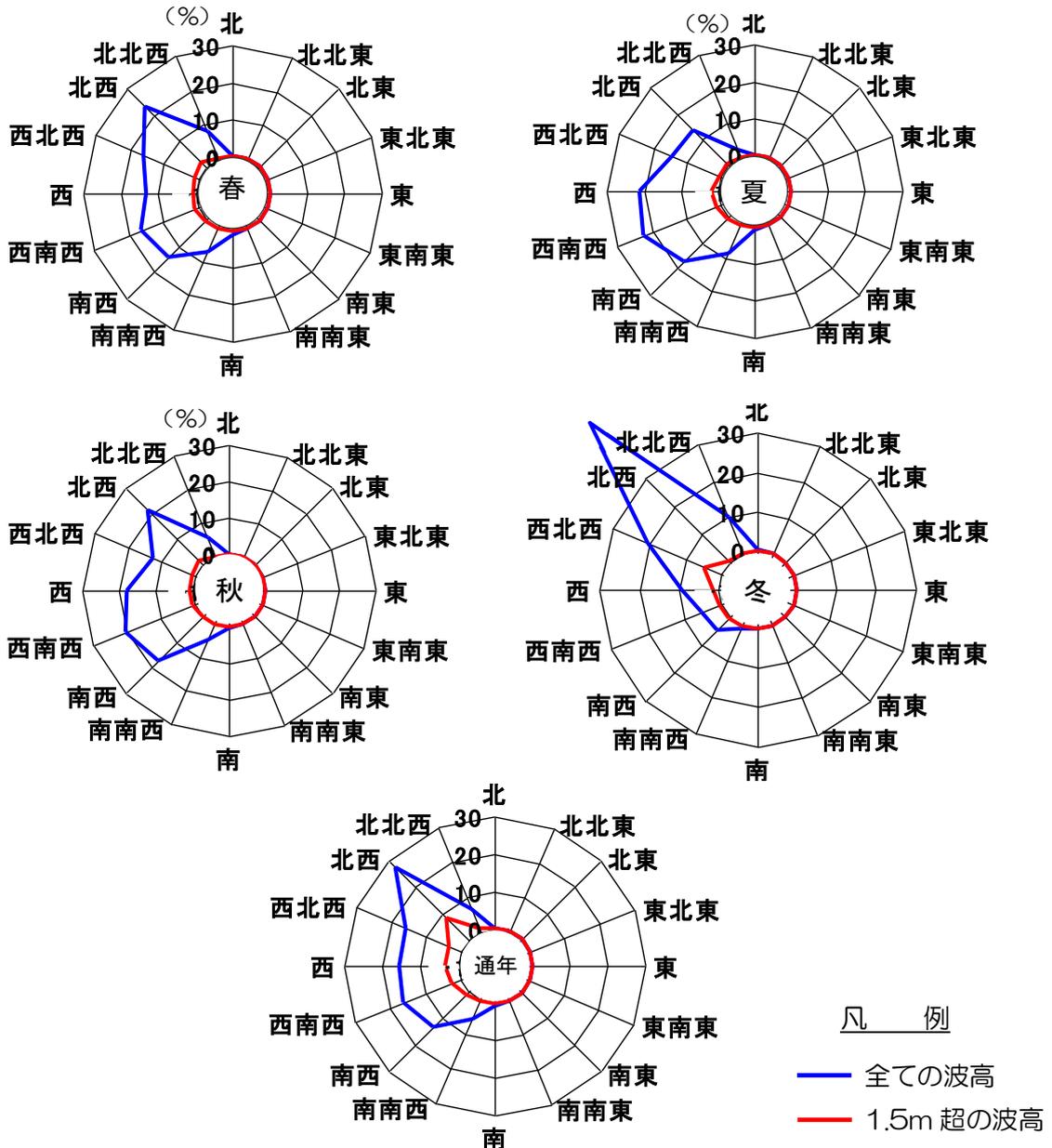
5 海象観測の結果

○波浪の観測結果について

観測地点	区分		春	夏	秋	冬	通年
			(3~5月)	(6~8月)	(9~11月)	(1,2,12月)	
波浪1	最多出現	波向	北西	西南西	北西	北西	北西
		出現率	23.5%	22.7%	21.4%	50.4%	27.1%

観測期間：平成19年の1年間

【波向の出現率図及び1.5m超の波の出現率図】



○波浪の特性

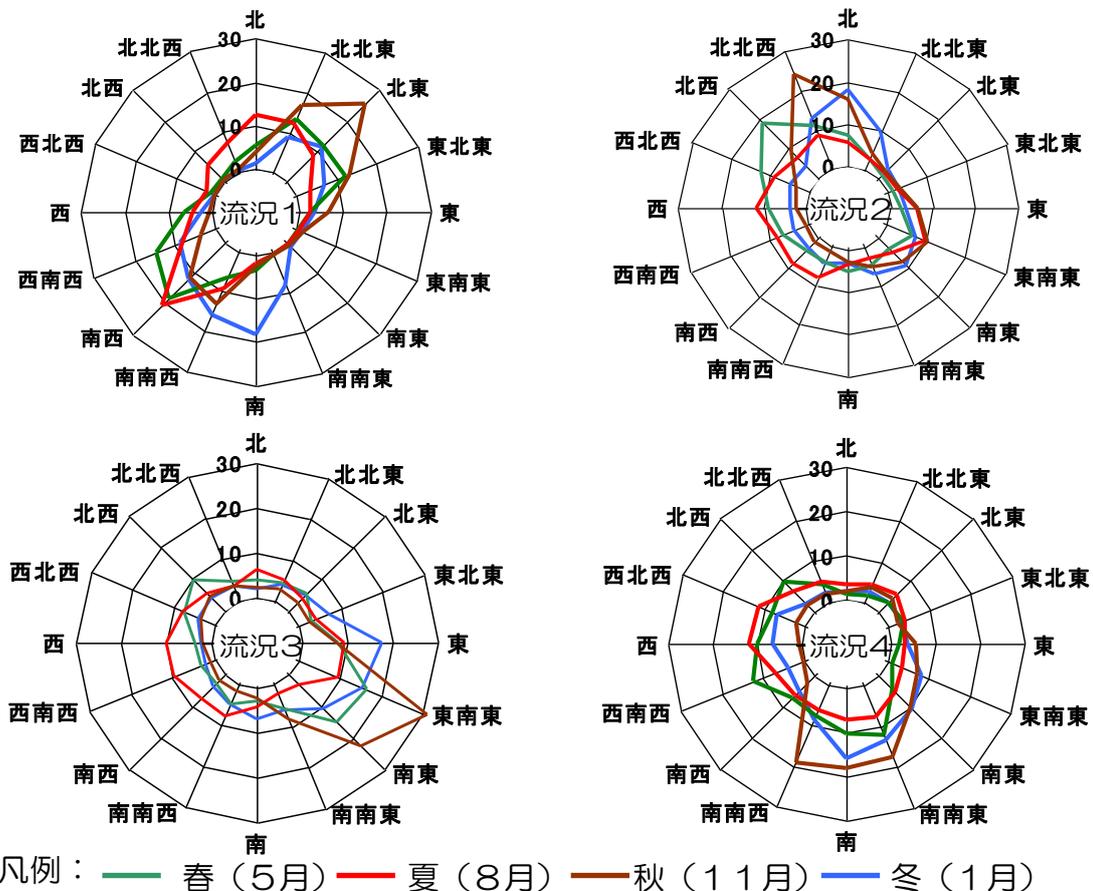
- ・年間を通して北西の波向が多かった。
- ・春と秋には、北西と西南西系の波向きが多かった。
- ・夏には、西南西系の波向きが多かった。
- ・冬には、北西の波向きが卓越していた。
- ・年間を通した1.5m超の波の出現率は、18.7%

○ 流況の観測結果について
 <表層の流況について>

観測地点	区分		春 (5月)	夏 (8月)	秋 (11月)	冬 (1月)
流況 1 (二見港口海域)	最多出現	流向	南西	南西	北東	南
		出現率	18.3%	20.5%	25.2%	18.1%
	平均流速		4.1 cm/s	7.6cm/s	6.1cm/s	3.7cm/s
流況 2 (小港冲海域)	最多出現	流向	北西	西	北北西	北
		出現率	18.7%	11.6%	24.4%	18.1%
	平均流速		7.6cm/s	8.6cm/s	9.5cm/s	6.3cm/s
流況 3 (象鼻崎冲海域)	最多出現	流向	東南東	西	東南東	東
		出現率	16.2%	10.0%	30.9%	17.7%
	平均流速		2.6cm/s	3.8cm/s	3.3cm/s	2.7cm/s
流況 4 (小港口海域)	最多出現	流向	南南東	西	南南西	南
		出現率	1.2%	11.8%	19.1%	15.8%
	平均流速		2.6cm/s	3.5cm/s	3.3cm/s	2.6cm/s

観測期間：平成 19 年の4季

【流向の出現率図】



○表層流況の特性

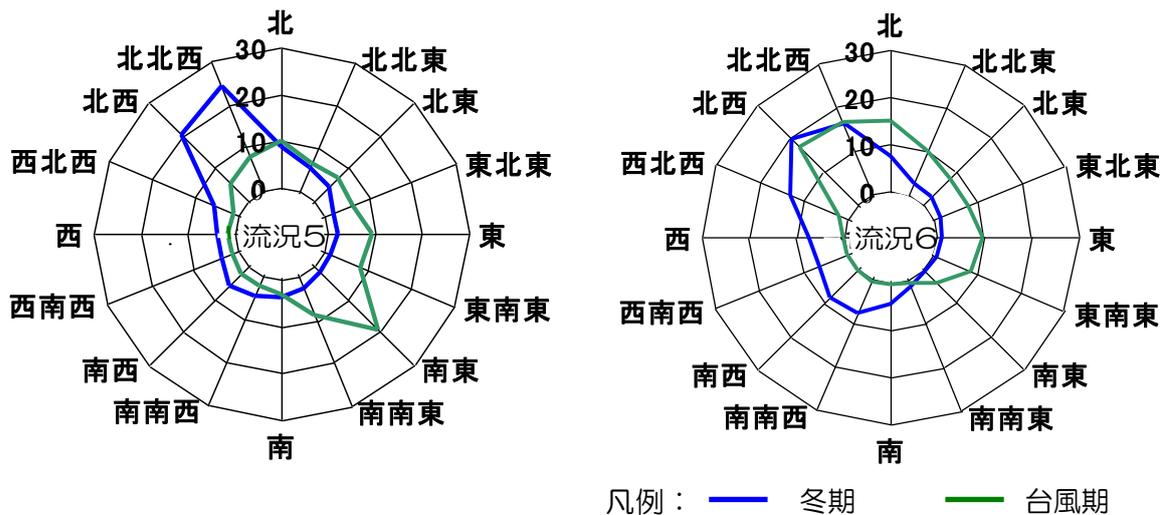
- ・四季を通して流況2での流れが速かった。
- ・各地点とも夏・秋の流れが春・冬に比べて速かった。

<底層の流況について>

観測地点	区分		冬期 (2~3月)	台風期 (9~10月)
			北北西	南東
流況5 (扇浦海域) 水深約12m	最多出現	流向	北北西	南東
		出現率	24.3%	19.3%
	平均流速		1.9cm/s	2.6cm/s
流況6 (小港海岸海域) 水深約6m	最多出現	流向	北西	北西
		出現率	19.6%	17.4%
	平均流速		1.6cm/s	1.9cm/s

観測期間：2007年の2季

【流向の出現率図】



○底層流況の特性

- 流況5では、冬期には北北西の流れが卓越し、台風期は、逆方向の南東の流れが卓越していた。
- 流況6では、冬期には北西～北北西の流れを主方向として西方向の成分の流れが多く、台風期には北西～北の流れを主方向として東方向の成分の流れが多かった。

登録に向けたスケジュール

平成22年1月26日
ユネスコの世界遺産委員会へ推薦書、

平成22年7月2日～15日
世界遺産委員会の諮問機関である
IUCN(国際自然保護連合)による

平成22年9月14日
IUCNからの追加情報提出要請

平成22年11月15日
追加情報提出要請への回答

現在 →

平成23年3月まで
2回目の追加情報提出要請があった場合、回答するなど、IUCNとのやりとり

平成23年5月頃
IUCNが評価結果、提言をとりまとめ、世

平成23年6月下旬
バーレーンで開催される第35回世界遺産委員会において登録可否の審議

推薦書における航空路関係の記載

4.b 影響要因

4.b.1 開発圧力

推薦地のすべての地域は保護地域として適切に保護され、開発行為は厳しく規制されている。各種法的規制状況については、「5. 保護管理」の章で詳しく述べる。ここでは、推薦地周辺における開発行為のうち主なものについて述べる。

4.b.1.1 航空路開設の検討

推薦地への交通手段は、現在、約6日に1便の船舶に限られている。小笠原村が2007年12月に村民を対象にした航空路の必要性に係るアンケート調査を行ったところ、回答者の約70%は「必要」・「必要であるが条件がある」という結果であった。この調査結果に基づき小笠原村は、東京都に対し航空路協議会の設置を要請した。

東京都は、自然環境との調和に十分配慮した航空路の開設について検討を進めるため小笠原村と2008年2月に小笠原航空路協議会を設置し、航空路の構想・計画段階から住民等が意見を表明できる場を設け、そこでの議論を事業計画に反映させるためパブリック・イン

IUCN現地調査時の評価等

<評価>

- ・ 美しい島しょ生態系である。
- ・ 外来種の問題があるが、ここ数年の間、しっかりと対策が行われてきたことを評価する。
- ・ 各種取組について、関係機関やNPO・NGOが協力して努力していることについて称賛する。
- ・ 自然の保全について、多くの成果を得ていることが素晴らしい。

<今後の課題>

- ・ 既存の海域公園地区を推薦区域に含めてはどうか。
- ・ 外来種対策を継続すること。また種によっては根絶ではなくコントロールすることについても考えていくこと。
- ・ 観光客の来島時に伴う外来種の持込について対策を行うこと。

IUCNからの追加情報提出要請と回答

(1) 既存の海域公園地区を推薦区域に含めること

→既に自然公園法により保護されており、新たな規制が加わるものでもなく、連続性の確保などからも有意義であるため、海域公園地区を推薦区域に含める(推薦区域に接していない父島製氷海岸海域公園は除く)。

(2) 推薦区域がバッファゾーンに囲まれていることを明らかにすること

→バッファゾーンとは、推薦区域の外に設けられる緩衝区域のことである。推薦区域を取り囲んでいる小笠原国立公園の区域は、バッファゾーンの機能を実質的に果たしている。また、国立公園以外の区域(図1の白地の区域)についても、管理計画を策定して保全を図っていくこととしている。従って「管理計画の主な対象範囲」のうち推薦区域以外の区域は、バッファゾーンの役割を果たしている。なお、回答はバッファゾーンの機能があることを認めることであり、バッファゾーンと位置づけた場合も新たな規制は発生しない。

(3) 外来植物の分布についての情報提供

推薦書提出時の推薦区域と国立公園

※推薦区域周辺の岩礁等も推薦区域に含まれる

